

新規トンネル資材の効果確認試験

JA十勝池田町

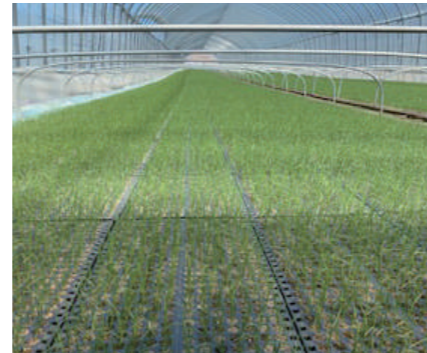
十河 学



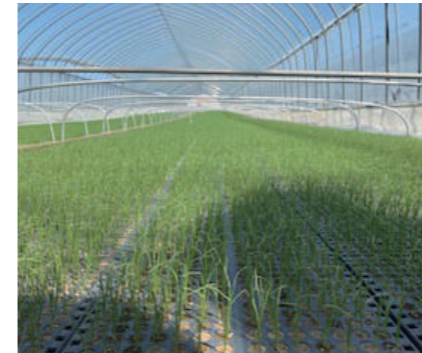
R3.3.12クリンテート①



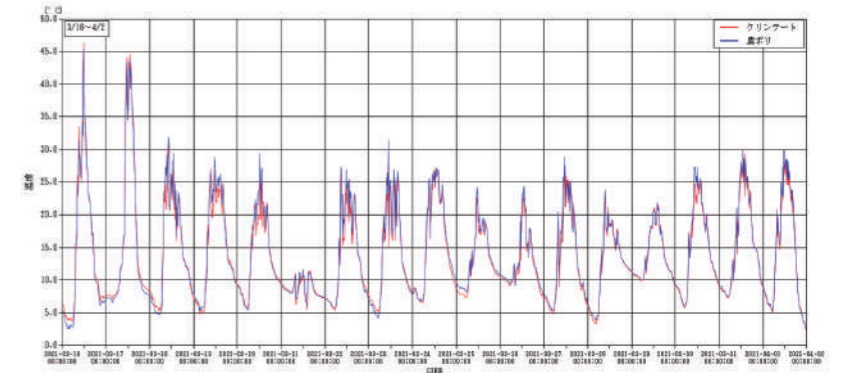
R3.3.12クリンテート②



R3.4.5クリンテート区



R3.4.5慣行区



3月16日～4月2日温度推移

試験目的

玉葱育苗におけるクリンテートトンネルの作業性、生育促進効果確認

試験作物及び品種

玉葱

試験資材及び数量(規格)

クリンテートトンネル(0.05mm×4.2m×100m)

慣行資材

農ポリ透明(0.05mm×4.2m×100m)

栽培方法

播種日

3月上旬

収穫日

9月1日

資材使用期間

3月12日～4月1日

試験区面積

10,000㎡

試験結果

(1)作業性について(慣行品との比較)

朝の開ける作業は水滴がついていないため楽であったが夕方に閉める際はフィルム同士がくっついてかけづらく感じた。

(2)作物の生育状況または、収穫への影響

両端の生育むらもなく、試験区、慣行区共に均一に成長していた。

(3)栽培管理上の優位点あるいは問題点について

【優位点】：クリンテートトンネルは水滴がついてない分朝の開ける作業が楽。農ポリ、オニオンホットに比べて汚れづらい。オニオンホットに比べて展張する際の静電気がないため作業しやすい。

【問題点】：夕方の閉める作業でフィルムがくっついてかけづらい。保温性が慣行品とさほど変わらず生育差も変わらない。

(4)保温効果について

温度計を設置して比較したところ積載温度は若干慣行区が上回っていた。(グラフ参照)

要因としては十河様宅ではフィルムをかける支柱パイプが地面から30cmのものを使用していたため、フィルムと苗の距離が近くなり空間が狭い分、保温力が農ポリでも十分確保できた可能性がある。

モニター感想

生育に関しては慣行品の農ポリと比べて大きな差はなく問題なかった。

作業性については朝の開ける作業で水滴がついて

いないため開けるのが農ポリに比べて楽だった。
また農ポリ、オニオンホットに比べて汚れづらいので2年目も使えるかもしれない。(通常は毎年農ポリを更新している。)

しかし夕方の閉める作業ではフィルム同士がくっついて閉めづらいのと農ポリと保温性が変わらない点は残念であった。

おそらく保温力が変わらない要因としては、フィルムをかける支柱パイプが苗から30cmのものを使用しており、そのため苗の距離が近くなり農ポリでも保温力が確保できた可能性が高い。

JA担当者の感想(花本 氏)

農ポリと比べて保温効果が高いと聞いていたが、温度計を使用して測ってみると慣行品の農ポリとさほど保温力が変わらず残念であった。

しかし慣行品に比べ、フィルムに水滴がつかないことや、汚れづらい点は評価できる。

石油価格の上昇によりフィルムが値上げ傾向にあるので、安価でいい資材があれば今後も推進していきたい。

今後の使用について

改良してほしい。

将来希望する資材について

安価で保温性の高いトンネル資材。

1 農ポリフィルム
2 マルチ

3 育苗資材

4 トンネル資材

5 防虫資材

6 酪農資材

7 ICT機器